

令和8年度第1回岡崎市民病院地域医療支援委員会 会議録

開催日時	令和8年4月23日(木) 午後2時から午後2時50分
開催場所	岡崎市民病院 第1・2・3会議室
委員	(出席者) 13名 小林 靖、田那村 収、升川 浩子、市川 博文、鈴木 正博、片岡 博喜、相川 美代子、諸田 孝子、大須賀恵美子、中根 敏裕、石山 聡治
事務局	地域医療連携室管理監 岡田 幸男、副室長 蟹江 尚美、副室長 寺田 有子 室長補佐 酒井 玲、副主任 岸 こずえ、総括主査 若山 淳、会計年度任用職員 梶山 広美
会議次第	1 院長挨拶 2 議題 (1) 地域医療支援病院業務実績(令和7年4月～令和8年2月)について (2) 地域医療支援病院講演会について
傍聴者	0人
議事要旨	<p>1 院長挨拶 (内容省略)</p> <p>2 議事</p> <p>議題1 地域医療支援病院業務実績(令和7年4月～令和8年2月)について (事務局) (資料1)</p> <p>紹介患者数の月平均は1,537人と前年度を下回っている。時間内の救急患者数は月平均52人、紹介時間外救急患者数は月平均が91人、時間内紹介患者数は月平均1,394人、これは令和5年度の1,398人からは4人、6年度の1,444人からは50人の減少。初診時間内救急患者数月平均は196人と増加傾向、紹介時間内救急患者数は横ばい。時間内の救急患者数は減っていないが、予定の紹介患者数を増やす必要がある。時間内における紹介においては、地域の医療機関から藤田医科大学岡崎医療センターや愛知医科大学メディカルセンターへの患者の分散が起きている可能性。紹介患者数のうち、時間外の紹介救急患者数の減少については、これは近隣の医療機関が速やかに緊急受診の判断をされていることも考えられる。全体の紹介患者数が伸び悩んでいることについては、小児科の紹介数の累計比較が86.16%と減ったことが理由の1つ。2025年度は、インフルエンザの数は一定数あったが、学級閉鎖が速やかに対応されたことで、小児科の受診者数が低下したことが考えられる。呼吸器内科の83.64%については、前年度よりも、新型コロナウイルス感染症が大幅に減少していることが関連。小児科、呼吸器内科とともに、季節性の要因が大きい。呼吸器外科。心臓血管外科は、藤田医科大学岡崎医療センターの得意分野ということもあり、患者の流出は予想される。皮膚科は、今年度は医師の増員をしている。紹介患者数の減少の原因として、クリニックからどの科に紹介すればよいかわからないなど、当院の受け入れ体制や診療情報提供内容に対して問い合わせやご意見をいただくことがある。当院が選ばれる病院になるために、引き続き情報収集、問題案件があれば速やかに事実確認や対策を講じ、クリニックに出向き説明するなど、信頼が得られるよう努力していく。他にも、地域の医療機関に対して、Web予約システムで紹介状送信により、スムーズな紹介システムを今後も整えていきたい。また、今年度はクリニックの院長との面会の機会をふやしていき、当院の地域連携に関するニーズをさらに把握していく。循環器内科、消化器外科の診療科訪問では、当院の診療科からのPRが足りないというご意見をいただいた。専門医及び当院でしかできない高度で専門的な治療を要する患者様をご紹介いただくように、広報なども積極的に活用し、お伝えしていきたい。逆紹介率の月平均は93.5%に減少。診療情報提供料Iは年々減少。これは、令和</p>

4年度の診療情報提供料算定の改正もあり、算定に見合う内容でない文書が加算及び逆紹介から除外されているため。なお、数値につきましては、地域医療支援病院承認要件②の紹介率65%以上、逆紹介率40%以上に該当しているため、条件を満たしている。逆紹介の推進については、泌尿器科は、脳神経内科、皮膚科に加え、消化器内科に介入している。医師の意識改革も必要と考え、随時、当室室長が各診療科カンファレンスで説明している。また、スムーズに逆紹介が進むよう、現在、逆紹介先の連携医療機関のリストの抽出を行っている。

(資料2)

紹介検査受診者数は月平均が43件と増加。MRI・RIが月平均12件と増加傾向。高度医療機器が活用されている。

開放病床の小児病棟は、昨年よりも利用が増え、現時点で昨年の4倍の20件。成人の開放病床の利用はない。当院とクリニックが共同で診療していくことを前提に、効果的な活用ができるよう、開放病床の活用目的について、改めて情報提供していく。小児科のクリニック様に訪問したときに、開放病床の運用について、どこも知らないのではないかとのご意見もいただいたので、定期的にお知らせしていく必要があると思われる。会議室、図書室の利用実績は特になし。当院図書室では診療科ごとの学会誌や看護系雑誌が豊富にあり、最新の知識を得ることができる。先日2月にも地域連携室だよりにて、看護師向けのラインナップを周知。

(資料3)

救急患者の延べ数合計の月平均は1,906人。ドクターカーの出動数は令和6年度合計は月平均4.3件、今年度は月平均8件と増加。ドクターカー単体の出動は、令和7年度は7件あり、1月に1件救急搬送があったのみで、その他は搬送には至っていない。ドクターカー単体の出動が減少している理由は、救急科医師の人員不足及び火曜日のみの出動となっているため。また、DMAT車両については、令和6年度は計8件、7年度は7件の出動があった。いずれも転院等の搬送に使用したもの。

(資料4)

地域医療支援病院講演会を1ヶ月に1回定期開催しており、4月の耳鼻科や10月の糖尿病と医科歯科連携の院外の視聴者数が、後日配信も含め50名を超えていた。よくある疾患でタイムリーかつ活用可能なテーマの視聴者数が多い傾向。視聴者数が少ない月があるので、さらにPR方法等を工夫していきたいと考えている。バックナンバーはいつでも視聴可能。なお、今年度より、配信時間を午後2時からに変更して研修会への参加者を増やし、広い範囲で最新の医療をお伝えし、地域の医療の質向上に貢献していきたい。

(資料5)

診療に関する諸記録の閲覧実績については、月平均数はほぼ横ばい。地方公共団体の増加が見られる。

(資料6)

地域医療機関との連携を円滑に行い、患者家族からのご意見相談に応じている。実績数には大きな増減はない。退院支援相談については、令和6年度及び算出方法が新規の相談件数のみとなったので月平均数は減少傾向だが、昨年度後期からほぼ月平均900を上回っている。がん相談件数も安定した数で推移している。がん相談の案内カードや、がん相談案内用紙の配布等で、今後さらに相談数が増えることを期待。市民の皆様には、予定の外来受診はなくても相談にみえる方や電話で想像される方も多くなっている。セカンドオピニオンは、安定した数を維持。

(資料7)

退院調整をして退院した患者数は、月平均が脳神経内科29.5人。整形外科28.9人と、2科は依然として高く、これは脳卒中及び大腿骨骨折の地域連携パスの運用は浸透。月平均合計は、令和7年度171.8と増加。全体の退院調整数の増加傾向の理由は、引き続きの治療やリハビリが必要なケースだけでなく、治療後も自宅に戻れない、戻ってきては困るといったケースが増加していることが挙げられる。退院カンファレンスは減少傾向。自宅に退院される方が減ったため。

(資料8)

地域連携クリニカルパスの新規登録件数は、合計の月平均が56件と増加傾向。内訳は、脳卒中、大腿骨骨折、岡崎CKDの地域連携パス登録件数の、月平均が多く、それぞれ月平均が19、11、15件。CKD連携パスは、糖尿病連携パスと合わせて、藤田医科大学

岡崎医療センター、愛知医科大学メディカルセンター、当院の3病院の共通パスを使用し、地域の診療所が連携しやすい環境を整えている。肝がんを除く4つのがんについては、数を増やし始めている。

(委員A)

脳神経内科・整形外科の紹介患者数が減っているということは、入院の前段階の人たちの紹介をもう少し要望するべきである。高齢者が多くなると整形外科患者が増えると思われる。昨年度の正面駐車場の工事により、整形外科の通院患者は少し不便を感じたと思うが、工事中に外来患者数に影響があったら教えていただきたい。

(事務局)

工事中は患者さんから、車を止めて歩くのに時間がかかるなどのご意見をいただいた。ただ患者数が減ったかということは、実感としては感じていない。車を止めるところが遠くなって、車椅子等々が必要な方については、あらかじめ患者サポートセンターの方に申し出ていただき、患者サポートセンターのスタッフが送迎することで対応をした。

(委員B)

紹介率の比較で歯科口腔外科が129名増加。これは地域医療連携室と岡崎市民病院の統括部長が当日抜歯をやりだして、当初は全然予約枠が埋まらなかったが、クリニック訪問をして埋まるようになった。また、開業医でがん検診しているが、年1回市民病院の講演会で、開業医ががんを見つける勉強会をしている。医科歯科連携の典型であり、紹介患者が伸びたといういい結果が出たのは嬉しい。

(委員C)

救急車で来ると半分ぐらいの人が入院という気がするが、何らかの処置をして帰る人がいる。小児科が帰りやすいとか、整形は帰るとか何か特徴はあるのか。救急車で行っても帰れるっていうのは、ちょっとした外傷なのか。小児は、熱とか痙攣とかなのか。

(院長)

小児科は、状態が急変しやすいので入院している。ちょっと転倒で骨折してない、打撲だけの方は帰る。内科的な疾患でも本当に発熱しただけの方は帰っている。当院では、基本的に入院は比較的スムーズに重症度を見ながら行っているが、どの科が入院しないというのははっきりしない。入院するべきものはしている。

(委員C)

紹介する科がわかりにくいということだが、病気によってはどの科がいいかと考えるときに、どのようにやったらベストか。総合診療科がいいとかあるのか。どこの科というのは書かなくてもいいのか。

(事務局)

マニュアルをもとにどこに振り分けるかはある程度決まっており、その範囲でわかったら何科と書いてくださいとご案内している。

(委員C)

2040年に向けて高齢者の高齢化ということが増えてくるが、最近はおラルフレイルとか、嚥下がちょっと悪いとか、年齢的にだんだん飲み込みが悪くなって誤嚥性肺炎になる。その一手手前で摂食嚥下外来をやってもらいたい。口腔外科の先生だとか、栄養士とかSTとかいろいろ評価してもらい、患者さんを紹介したらそこでこういう結果、こういうリハビリをした方がいいとかそういうことが分かると、開業医は助かると思う。特に高齢者は増えていくが、誤嚥性肺炎の一手手前になる人がいる、ワクチンを打つことも大事だが、嚥下機能を高めてもらいたい。摂食嚥下外来を市民病院でいち早く立ち上げるといいと思う。

(院長)

摂食嚥下外来はあるが、耳鼻科と口腔外科の共同なので、それぞれメインの仕事があり1日1人とか2人しか診られない。ニーズはあるが、もう少し人が増えて専門家が増えないと難しい。

(委員D)

紹介患者数は、内分泌とかは25%以上増えているのは、皆さんが一生懸命やっていただいて、診療科の先生方が売り込みして増えたのか、増えた理由は何か掘り込んでいるのか教えていただきたい。

(事務局)

歯科口腔外科に関しては、当日抜歯のご案内を診療科訪問したら顕著に増えた。クリニ

ックの院長と直接話し、その後にご紹介患者数が増え、今は2ヶ月待ちになっている。内分泌内科については、糖尿病センターの方々がいるなどところで活動されている。

議題2 地域医療支援病院講演会について

(事務局)

資料9は、令和7年度の地域医療支援病院講演会の受講実績。7年度は、夜間の19時20分から20時までの40分間講演会を配信。視聴は配信日当日、youtubeでのアーカイブ配信が可能で、市民病院職員及び院外の医療従事者が視聴。受講実績としては、多いところで4月のアレルギー性鼻炎・副鼻腔炎治療、睡眠時無呼吸症候群に対するCPAP療法への関わりが80名、6月の胃がん 実践がん地域連携クリニカルパス、胃がん術後の栄養指導の実績が92名、10月の糖尿病と歯周病の深い関係、予防のための歯科受診が76名の方が視聴。市民病院としては、視聴者数を伸ばし、地域の医療従事者のスキルアップ、最新の知見や施設の情報共有を図っていききたい。令和8年4月から、夜間の時間帯ではなく、昼の14時からの40分間に講演会を配信。これは、豊橋市民病院など近隣の病院が、同様の時間帯で配信していること、クリニック等の休憩時間などの時間帯に配信することで、視聴者数の増加を見込んでいること、職員の業務効率化を図ることにより変更した。資料の一番下の令和8年4月の当日の視聴者数は11名、4月21日現在のアーカイブが16名で計27名であるが、今後も最新の医療を掲載した講演会を昼の時間帯に開催することを周知しつつ、視聴者数の増加により、地域医療の充実を図る。

(委員E)

最新の知識を医療従事者に提供できるという点ではとても良いと思う。夜間はスタッフの参加は難しいと思うので、お昼休みの時間に開催するのはよい。

(委員F)

今後いろいろと視聴し、地域の人たちに勧められるものがあれば勧めていきたい。

(委員G)

市民病院の講演会ではないが、糖尿病と歯周病の深い関係という講演会があり、思ったよりたくさん参加していた。年齢を重ねると、歯の方に影響が来てしまうのか、生活習慣病で糖尿病になるのかどちらが先かわからないが、70から80歳ぐらいの方が60人ぐらい参加されていた。予防という意味で、早期発見に繋がるような講演会がいいのではないかと思う。

(委員H)

先生たちの講演は、すごく身近に感じられる。ぜひこういうものをたくさんやっていただいたほうが、住民は受けとめがとてもよいと思う。

(議長)

他に意見及び質問がないことを確認する。

本日の提出議案は全てご承諾いただいた旨を報告し、会議の終了を宣する。

次回は令和8年7月23日木曜日14時からを予定している。

(以上)